

# R

KANSAI  
UNIVERSITY  
NEWSLETTER

Man is a Thinking Reed

# Reed

No. 14

July, 2008

関西大学ニュースレター

発行日：2008年(平成20年)7月25日

発行：関西大学 広報室広報課

大阪府吹田市山手町3-3-35

T 564-8680 / TEL 06-6368-1121

http://www.kansai-u.ac.jp/



■ 鼎談  
西村 嘉郎 (朝日放送株式会社 取締役相談役) × 森本 靖一郎 (理事長) × 河田 悌一 (学長)

難しいことを易しく、奥深く、楽しく、楽しく！  
東京一極集中に対して、関西の文化や表現力の豊かさを見直そう！



■ リーダーズ・ナウ — 5

在学生 — 関西大学第一高等学校・豊島 将之さん

卒業生 — CMディレクター・黒田 秀樹さん

■ 研究最前線

スポーツや工場立地などの経済効果を算出  
数理経済学をベースに経済効果を分析 — 7  
大学院会計研究科 — 宮本 勝浩 教授

D型アミノ酸の定量的解析から生成機構の解明へ  
植物の生理機能の謎に分子レベルで迫る — 9  
化学生命工学部 — 老川 典夫 教授

■ トピックス [学内情報]

21世紀の技術立国を担う人を育てる — 11  
理工系3学部9学科20コースの教育・研究

■ 連携事業 / 地域連携 — 13

高槻新キャンパス・社会安全学部(仮称)2010年開設  
「安全・事故防止、防災・減災、危機管理」の  
教育・研究拠点  
安部 誠治 副学長

兵庫県加西市と連携協定を締結  
「関西大学地域アカデミー」を開催

■ 関大ニュース — 15

文部科学省「人文学及び社会科学における  
共同研究拠点の整備の推進事業」に採択 ほか



# 難しいことを 易しく、奥深く、楽しく！

東京一極集中に対して、  
関西の文化や表現力の豊かさを見直そう

西村 嘉郎 ◆朝日放送株式会社 取締役相談役  
森本 靖一郎 ◆理事長  
河田 梯一 ◆学長



ABC朝日放送は6月23日、移転した新社屋からの放送を開始した。水の都らしい景観の広がる堂島川に面した新社屋は、「デジタル時代の創造工場」が基本コンセプト。社屋の建設と移転という大事業を代表取締役社長として成し遂げ、相談役となった朝日放送の西村嘉郎さんは、昭和30年代前半に関西大学の天六学舎で学んだ。「力強い創造集団」を率いてきた人は、情熱を秘めて穏やかに語る。

## ◆「デジタル時代の創造工場」が誕生

**森本** 先日、新社屋竣工の内覧会に招待していただいたとき、21世紀の放送局はここまで来たのかと驚きました。スタジオの規模と設備はもちろん、木と芝生の緑が映える庭の向こうに中之島のパノラマが広がるリバーデッキも、情報と安らぎを提供する大きな力になると感じました。

**西村** 2003年に阪大病院跡地の再開発について公募がありました。「水の都」復活につながる、魅力的な水辺のまちを創造する」という方針に沿って事業企画コンペが行われ、情報発信基地として評価された朝日放送が西側地区を取得しました。建築デザインは隈研吾さんにお願ひし、水辺の自然と一体化した上品な建物ができました。

制作系のA・Bスタジオ、情報番組のCスタジオ、報道番組のNスタジオと、5つのラジオスタジオ、そして多目的に使用できるABCホールがあります。「デジタル時代の創造工場」と位置づけ、新しいコンテンツを創造する最新鋭の設備を備えています。

**河田** 西村さんが手がけられた「探偵！ナイトスクープ」が20周年を迎えたそうですが、あの番組は大阪らしいユニークな内容で、東京でも好評らしいですね。この素晴らしい新社屋から、独創的な番組がどんどん生まれてくるという期待感が高まります。

ここは大阪の文化の中心地で、周りには大阪国際会議場や大阪市立科学館、大阪大学中之島センターなどもあります。大阪は江戸時代から、明治、大正、昭和の戦前まで、日本経済の中心地、商都であるとともに“文化発信のまち”でした。近年は文化的にも地盤沈下し、求心力を失っているのが残念です。そんななか、ここに大阪の文化の新しい発信拠点ができたことは大きな意味を持っています。

**西村** 朝日放送のある街区は「ほたるまち」と名づけられました。かつて中津藩(大分県)の蔵屋敷があったところで、福沢諭吉誕生地の碑があります。この歴史のあるまちからどのようなコンテンツを発信し、関西や大阪の地域文化に貢献していくかということは、これからの大きなテーマです。

## ◆初めて知った「学ぶことの楽しさ」

**森本** 西村さんとほぼ同時期に関西大学の天六学舎で学ばれた卒業生には、国土交通大臣の冬柴鐵三さん、株式会社きんでん代表取締役副会長の中谷修己さん、株式会社オービック代表取締役会長兼社長の野田順弘さんなど立派な方がたくさんいらっしゃいます。

います。西村さんは、どのような学生時代を過ごされたのですか。  
**西村** 父親が早く亡くなったため、僕は小学校の教師をしていた母親に育てられました。県立西宮高校を卒業し、郵便局に1年ほど勤めたあと、朝日新聞社の調査部で資料整理の仕事しながら関西大学に通いました。朝9時に出勤し、夕方5時ごろになると部長以下みんなが「学校へ行ってこい」と言ってくれる。当時の新聞社は朝日に限らず、人を育てるという社風があり、天六学舎で学んでいる学生には新聞社に勤めている人が多かったですね。

地下の食堂でカレーやうどんを食べて、暮れていく教室で授業を聴くことがすごく新鮮でした。あの暗い電球の階段を上りながら、今この時間を大切にしようという気になったものです。苦学生とかいう意識はなく、学ぶことの楽しさを教えてもらいました。授業が終わると夜の11時過ぎに宝塚まで戻り、そこから家まで6キロほどの道を歩いて帰るのも、あんまり苦にはなりません。

**河田** そして、翌朝また9時から仕事となると、かなりストイックな生活ですね。今は学ぶことを強く望んで入学するというよりも、一種の通過儀礼のように考えて、大学に入って出ていく学生が多くなっています。文学部で哲学科を選ばれたのはどうしてですか。

**西村** 青春時代は、さまざまな悩みを抱え、自己嫌悪に陥ったりするものです。当時は実存主義が全盛の時代。自分を一度、足元から見つめ直したいという気持ちがありました。関大で学んだ昭和30年代前半は、「もはや戦後ではない」と言われ、日本の社会は豊かになりつつありましたが、今日から見ればみんな貧しく、まじめに勉強した時代でした。そこで、学ぶことの楽しさを初めて知ったことは、僕の人生にとって非常に大きかったですね。

## ◆創造性のある人材の輩出に期待

**森本** 西村さんは在学中に朝日放送に入社されました。その後は順調に歩まれたように思いますが、挫折や失敗はありましたか。  
**西村** どちらかというと、目立つことをするよりもこつこつやるタイプなんです。テレビ番組制作の現場を歩いてきて、そんなに大きな出来事はないですが、視聴率が悪いと苦悩する日が続きます。番組の企画がまとまらないで悩むことも多かったです。



■鼎談



森本 靖一郎 (もりもと せいいちろう)  
1932年奈良県生まれ。関西大学文学部、法学部卒業。母校に奉職し、67年に関西大学教育後援会幹事に就任。「大学と家庭のかけ橋」をモットーに、大学と父母間に信頼の絆を作り上げた。飛鳥文化研究所の開設にも尽力。事業局長、理事、常務理事を経て、2000年専務理事、04年10月理事長に就任。「強い関西大学」を提唱している。

私も「強い関西大学」を標榜しています。それはスポーツばかりではありません。教育、研究、社会連携などにも強い大学を目指しています。

放送局に入るといことは、ものを表現する手段を得るわけです。例えば、5分間の天気予報でも僕は楽しめる。天気予報をより分かりやすく楽しめる内容にするために、創意工夫をする。この仕事は自分にぴったり合っていました。社長になってから常に「力強い創造集団を目指そう」と言ってきました。総務や経理、人事など事務系の人々も、仕事に対する創造性を発揮することによって会社は変わって思っています。

森本 私も「強い関西大学」を標榜しています。それはスポーツばかりではありません。教育、研究、社会連携などにも強い大学を目指しています。120年を超える伝統を有する関西大学は、従来7学部だったのですが、河田学長とコンビを組んで、たかだか4年の間に、新たに8つの学部を創設することになりました。

昨年4月に政策創造学部、システム理工学部、環境都市工学部、化学生命工学部がスタートしています。2009年4月には外国語学部を新設するほか、2010年4月には、健康福祉、スポーツ・身体文化、健康とユーモア科学の3領域からなる健康文化学部を、堺市に開設予定です。また、JR高槻駅前に新キャンパスを設けて、小学校、中学校、高等学校、大学の社会安全学部(仮称)を設置します。災害時の避難場所としても有効に使える設計を考えています。隣接地に高槻市が公園を造ることも決まり、市民の憩いの場にもなります。

千里山キャンパスも学舎を完全に整備しました。第1学舎(旧法文学舎)や第2学舎(経商学舎)、第4学舎(旧工学部学舎)を新築しました。卒業生が大学に帰って来て、全く変貌したこのキャン

パスを見て、浦島太郎の心境だと言っておられました。

河田 同じく2010年の春に、本学と大阪医科大学、大阪薬科大学の3大学共同で、生命科学系新学部を設置することも決まっています。また、教育し研究するだけでなく、社会に貢献しなければならないということで、地域との連携、市町村など自治体との連携もどんどん積極的に進めています。

健康にもつながる笑いの文化は、新設する健康文化学部のテーマの一つです。社会学部の木村洋二先生らが開発した「笑い測定機」は、海外にも紹介されました。既に吉本興業さんとの連携が進んでいますが、朝日放送さんとも今後、一緒にやっていければいいですね。

西村 朝日放送には関大出身者がたくさんいて、それぞれ元気のある人物です。優秀な放送人の育成や、大阪の地域文化のために、連携して何かできればと思います。大阪を元気にしていく、創造性のある人材を、どんどん輩出していただきたい。

◆奥深く掘り下げて、学びの楽しさを!

河田 「探偵! ナイトスクープ」のほかにも、「プロポーズ大作戦」「ただいま恋愛中」「新婚さんいらっしゃい!」など、多くの人気番組を制作してこられました。これからのテレビ番組のあり方について、どのようにお考えですか。

西村 かつて、「面白くなければテレビじゃない」と言われた時代がありました。デジタル化にともない、テレビ画面も大きくなって情報量が増え、単に面白いだけでは見られない時代になってきました。われわれ作り手は今まで、分かりやすく伝えることを念頭に置き、難しいことを分かりやすく、面白く見せることに力を入れてきました。「分かりやすく」から「面白く」へ飛んでしまっ、そこに「奥深く」がないのが問題です。環境問題でも何でも、タレントさんなどを入れて楽しく見せていこうとしていますが、奥深さが欠けています。これからは難しいことを「易しく」、「奥深く」、「楽しく」でないと、テレビは見られなくなると思っています。

河田 やはりテレビももう少し知的になる必要があるのではないのでしょうか。大学もかつては、易しいことを難しく教えていました。そうではなく、難しいことを易しく教えて、その中で奥深いことを教えていけば、学ぶ喜び、知る喜びが得られるでしょうね。

西村 青春時代はそれこそ道に迷っているばかりですが、学ぶということは自分の進むべき方向性を探さずにはいられないかと思えます。少しずつ奥深く進んでいくと、自分の方向性が見つかるのではないかと。学生の皆さんにも、奥深く掘り下げていったときの楽しさを見つけてほしいと思います。

◆東京一極集中はメディアにも責任

西村 新社屋は朝日放送の歴史を踏まえ、視聴者との連携を考えた建物になっています。以前の大淀社屋にもABCホールがあり、そこで番組を開発することができました。視聴者参加型のトーク番組をずいぶん制作しました。有名な俳優さん、女優さんは、みんな東京にいますから、ドラマを作ろうと思えば呼ばな



西村 嘉郎 (にしむら よしお)  
1937年大阪生まれ。60年関西大学文学部哲学科卒業。58年に朝日放送株式会社、編成局長、常務取締役を経て、2002年6月代表取締役社長に就任。08年6月に社長を退任し取締役相談役に就任。「プロポーズ大作戦」「ただいま恋愛中」「和朗亭」など、数々のテレビ番組のプロデューサーを務める。学校法人関西大学評議員、関西大学客員教授。

もう一度、大切な遺産である関西の文化を見直すべき時期に来ていると思います。その意味でも、「力強い創造集団」を目指していきたい。

ければいけない。そうするとお金がかかる。限られた予算の中で、関西の特性を生かして、会話の妙であるとか、生きている人たちの様子や日常を番組化しようということになったのです。

「夫婦善哉」に始まり、「おやじバンザイ」「ただいま恋愛中」「新婚さんいらっしゃい!」などの一連の番組を、人生トーク路線と呼んでいます。人生のそれぞれの場面で、いろんな思いを切り取って番組化していくことができたのは、ABCホールがあったからです。

森本 東京一極集中は、高層ビルの建設ラッシュを見ても分かるようにすごい勢いです。これに対抗していく関西文化の砦の一つが朝日放送でしょう。関西の持っている強みといたら何でしょうか。

西村 東京一極集中は、メディアにも大いに責任があると思います。東京の六本木なんかをトレンドとして、われわれも発信してきた。東京ナイズされたものが魅力的であると疑わずに。ゴールデンタイムの番組は、今ほとんど東京で撮っています。当社の全国ネット番組で、こちらで撮っているのは「新婚さんいらっしゃい!」「パネルクイズ アタック25」「朝だ!生です旅サラダ」などわずかです。関西の他社は、全国発信する番組もほとんど大阪で撮っていません。

タレントさんが東京にいることのほかにも、大阪弁はスポンサーが毛嫌いと、大阪のにおいのするものは全国ネットになりにくい、東京で視聴率が上がらないといった背景がありました。吉本などのタレントも東京へ行ってしまっている。そ

れなら東京で作れということになる。だけど、もう一度、大切な遺産である関西の文化を見直すべき時期に来ていると思います。その意味でも、「力強い創造集団」を目指していきたい。

河田 人気のトーク番組が関西で生まれたということは、関西人の表現力の豊かさだと思うのです。この間、8大学の学長が集まって大学を紹介する、新聞社主催のイベントが東京で行われました。7大学まで東京と横浜の大学、関西からは本学だけだったのですが、こんなことを言うのはなんですが、関東の大学の学長先生はすごく生真面目な方が多く、関東と関西の大学の文化的な違いを感じました。

関西の大学は、自らの文化を担う人材を養成していかなければなりません。本学にある、なにわ・大阪文化遺産学術センターの、幅広い研究・教育活動を通し、関西の文化の創造と継承のため、一層の努力をしたいと考えています。

森本 6月の末に東京有楽町の朝日ホールで、「かんだい 明日香まほろば講座」という明日香村と連携したシンポジウムを開いたところ、500人を超える参加者があり、会場は満員でした。当日は、高松塚古墳壁画を再現した実物大レプリカを展示し、発掘当時の美しい壁画の色彩をご覧いただきました。このような関西の歴史・文化は東京にないものです。これは関西大学にとっても大きな強みであり、この強みを生かしていかなければなりません。

今年の10月19日に開催する校友会の総会で、西村さんには講演をしていただく予定です。今後ともよろしく願いいたします。



河田 徹一 (かわた ていいち)  
1945年京都市生まれ。大阪外国語大学中国語学科卒業。大阪大学大学院で中国哲学を専攻。86年関西大学教授。文学部長、副学長を歴任し、2003年10月学長に就任。1991年に在外研究員としてプリンストン大学で中国思想史を研究。文部科学省大学設置・学校法人審議会委員。社団法人日本私立大学連盟常務理事。財団法人大学基準協会理事。

教育し研究するだけではなく、社会に貢献しなければならぬということ、地域との連携、市町村など自治体との連携もどんどん積極的に進めています。



# LEADERS NOW!

■リーダーズ・ナウ [在学生・卒業生インタビュー]

## 最善手=盤上の真理 を求めて勝負

現役最年少、史上初の平成生まれのプロ棋士

●棋士 四段・関西大学第一高等学校 3年  
豊島 将之 さん

昨年の春、将棋のプロ棋士養成機関である新進棋士奨励会が実施する第40回奨励会三段リーグ戦最終日に、豊島将之さんの四段への昇段が決まった。念願のプロ昇格。現役最年少のプロ棋士、史上初の平成生まれのプロ棋士の誕生と話題になった。折しも、羽生善治王将が森内俊之名人を破った第66期名人戦七番勝負が繰り広げられているさなか、関大一高に豊島さんを訪ねて話を聞いた。

豊島 将之—とよしままさゆき  
■1990(平成2)年、愛知県生まれ。2006年関西大学第一高等学校入学。現在3年生。99年に新進棋士奨励会入会、04年三段、07年4月四段に昇格し、社団法人日本将棋連盟のプロ棋士となる。



平成生まれの最年少プロ棋士は、プロ1年目から早くもその実力ぶりを見せつけている。2007年8月から10月に1敗するまで9連勝。その後も今年の1月まで10連勝。その半年間は19勝1敗で年間勝率0.714は、全棋士中3位という見事な戦績だ。

それでも、うれしかったことを聞くと「あんまりないです。悔しかったことはいっぱいありますけれど」という答えが返ってきた。

「小学生の日本一『小学生名人』を決める大会で、2年生の時に負けて、3年生でアマチュア最後の大会と決めて臨んだのですが、敗れてしまいました。その後、プロを目指す奨励会に入っていたので出場できなくなり、アマチュアではトップにはなれませんでした」

プロになるためには、奨励会三段リーグ戦で高い成績を取らなければならない。小学3年生で奨励会に入会後、5年生で一級に昇進し、すぐに11勝1敗の好成績で、史上初の小学生プロ棋士の期待がかかり、三段昇段も中学2年生の4月と史上最も速かったが、そこから壁にぶつかった。



「三段リーグ戦が苦戦続きで厳しかったです。30人ぐらいが参加し、半年間で18局対戦し、成績上位の2人が残ります。中学2年の時から5回挑戦して、2年半かかってやっと四段になりました。初めのころは全然勝てなかったのですが、高校に入ってから必死に取り組んだので、自分でもかなり力がついたなと感じました」

「悔しさをバネにして」などは、常に勝負の世界に生きている人には言うまでもないことかもしれない。豊島さんが将棋を始めたのは4歳のころ。テレビで将棋と出会ったのがきっかけだった。5歳の時に大阪に引っ越してきてからは、関西将棋会館の道場に通り、9歳でアマ六段にまで上達した。勝負勘の鋭さが若いころの谷川浩司九段に似ているといわれ、「谷川二世」との呼び声も高い。

将棋の駒に触れない日はほとんどない。対局が近づいて来ると、相手によってどういう展開になるか、途中までは大体分かるので対策を考えているという。対局が始まる前はもちろん緊張するが、プロになると三段リーグほど緊張しなくなったそうだ。

「三段リーグの時は1局負けたらすごく悔しかった。負けたら気合が入るといえる、それが結構いい方向に出ているんですが、プロの対局になると持ち時間が長くなり、試合時間が長くなると負けた後で次の対局に力んでしまい、あまりいい結果が出ないということが徐々に分かってきました」

最近あまり力まないようにと心がけているという豊島さんにとって、将棋の面白さ、奥深さとは――。

「相手との勝負が面白いし、盤上の真理を追究することも面白い。どう駒を動かしたら一番いいのか、場面ごとに最善手が存在するはずで、それを探するのも楽しい。情熱を持ってやっていたらある程度のところまでは強くなっても、そこからが難しい。対局して修正を加えていくという地道な作業が大事。自分の長所は終盤に力を発揮するところだと思っているので、そこで競り勝てるようになりたい」

豊島さんの将棋人生は既に輝かしいが、まだようやく序盤を終えたところだ。

## 時代をとらえる 映像の職人芸

バンドのドラマーからCMディレクターへ

●CMディレクター  
黒田 秀樹 さん —社会学部 1982年卒業—

「24時間タカエマスカ」と問いかけるコピー、自ら作曲したCMソングも大ヒットした三共リゲインのテレビコマーシャル。鮮烈な映像が見る者を刺激し続ける、サントリー「ペプシマン」やマンダム「GATSBY」、資生堂「TSUBAKI」などのシリーズ。独特の表現スタイルでCF映像の流れを変えたと評される黒田秀樹さんは、音楽演奏で鍛えられた独自の感覚で、外科医のように、料理人のように腕を振るい、映像作品を作り上げる「職人」だ。



三共リゲインのCMは、30秒で24時間の戦いを表現しきった。資生堂「TSUBAKI」の場合は、たっぷりと量感ある髪が軽やかに揺れる女性の後ろ姿を追いながら、「日本の女性は美しい」というメッセージを伝えた。

「椿は一輪でもきれいだ。日本の女性は一人で咲いていても美しいという応援メッセージでもあるのです。日本人の男性は女性をほめるのが下手だと言われているけれど、恥ずかしげもなくほめようと、SMAPに女性をほめたたえる歌を歌ってもらいました。あの髪揺れは実写で、僕の髪も長いのでいろいろ実験してみました(笑)」

関大一高時代から長髪。先生に注意されながらも、バンド活動に打ち込み、ひたすらドラムをたたいた。中学1年から友達とバンドを組み、高校生ですでにセミプロの域に達して、京阪神のライブハウスで演奏を続けた。父も親族も医者という中で、ドラマー志望の黒田さんは異色というか、ドラ息子と評されたとか。

広告業界に入るきっかけは、社会学部のゼミだった。「植條則夫先生(現名誉教授)のゼミで、3年生の時は広告表現の歴史な

黒田 秀樹—くろだ ひでき  
■1958(昭和33)年、大阪府生まれ。82年関西大学社会学部卒業。電通映画社(現 電通デック)入社。90年フリーとなり、94年黒田秀樹事務所設立。斬新な映像で一世を風靡し、日本人論としても語られた「24時間タカエマスカ」の三共リゲインのほか、サントリー、マンダム、トヨタ自動車、資生堂などの記憶に残るCM作品多数。オムニバス映画「バカヤロー! 3」、「いぬのえいが」、福山雅治、サザンオールスターズ、SMAPなどのミュージックビデオも監督。数コマ単位の映像処理で「右脳」に響く時間を演出。



どの講義を聴き、4年生になると自分たちで商品を決めてコピーを書いて発表したりしました。植條先生が講師を務めていた学外のコピーライター養成講座で受付のアルバイトをすると同時に、授業を聴講させてもらった。課題のコピーやCMの絵コンテを提出すると、毎回トップテンの中に入り、先生の評価も高かった。

クリエイティブな映像の仕事に就いて、時間をコントロールして何かを表現するのは音楽と同じだと感じたという。それはCMには音楽が重要だというようなレベルではない。「僕は広告に音楽が必要だとは思わないし、無駄な音楽はないほうがいい」。例えば、二人の人間が電話で、サヨナラ、サヨナラと言って受話器を置くシーン。「普通は、後のサヨナラを聞いて1秒ほどで電話を切るショットを編集する。その間を詰めてガチャンと切ると、二人は仲が悪く見える。3秒延ばして切ると、このサヨナラは一生のサヨナラに見える。つまり間の取り方で、人間関係がどんどん変わってくるのです」

編集によって人間関係を作っていく。黒田さんはその作業を「オベ」と呼んでいる。肌や髪に輝きを加えたり、瞳の色を変えたり、目に光を入れて意志の強さを強調したり…、その作業は確かに「外科医」に似ている。また、CMディレクターを厨房のシェフにもたとえる。

「撮影は狩猟です。いくら演出をしようと思っても、天候にも左右されるし、満足な狩りができない場合もある。獲物を厨房に持ち込んで料理するのに、良い素材なら刺し身にして、ほとんど編集しないでパッと出しても力のある表現ができる。そうでないなら煮たり焼いたりして、おいしいものを出さなければいけない。それが映像編集や音入れです。ディレクターにもいろんなタイプがいるけれど、僕はかなりこだわりの職人として認知されていると思う」

時間をかけて、一品一品を仕上げる料理人である黒田さんは、最も庶民的な媒体であるテレビ広告が好きだという。「結果として、ものが売れたり、小学生が歌ってくれたりする。作ったものが伝播して反応が戻ってくるのが速くて、世の中と関係を持っている、その時代と絡み合っている感じが好きなんです」



■研究最前線

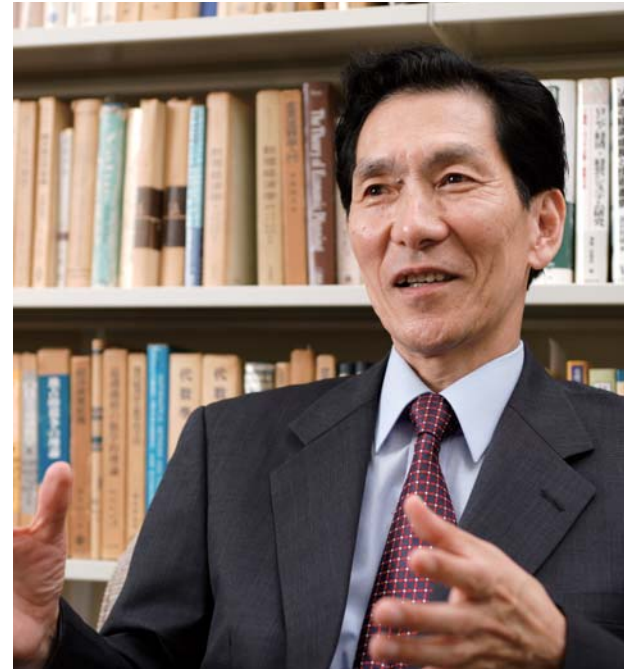
スポーツや工場立地などの経済効果を算出

数理経済学をベースに  
経済効果を分析

広い視野に立った論理的な思考方法が身につく経済学

◎大学院会計研究科  
宮本 勝浩 教授

今年のプロ野球は阪神タイガースが首位を突き走り、関西大学出身の岩田稔投手が目覚ましい活躍ぶりを見せてくれている。優勝すれば大阪の町は活気づき、経済効果も期待できる。阪神が18年ぶりにセントラルリーグで優勝した2003年に、いち早く優勝の経済効果を分析して注目を集めたのが宮本勝浩教授。その後いろいろな経済効果を発表してきた宮本教授に、どのように効果を算出するのか、調査や分析の方法を聞いた。



2003年阪神優勝の経済効果推定値を発表

経済効果を示す数字の背後には、膨大なデータと綿密な計算がある。宮本勝浩教授はもともと理論経済学が専門で、中でも数学を使う数理経済学を研究していた。数学のヨーロッパの雑誌に論文を発表したこともある。発展途上国や社会主義の経済システムが自由主義市場経済に移行する際に起きること、必要なことを、数学モデルを使って研究してきた。

しかし、文系の経済学部には数学が苦手な学生が多いため、できるだけ興味を持ってもらおうと、地元の関西を対象に経済分析をするようになった。そして、2003年の阪神タイガースの快進撃。1985年の日本一以来、17年間に最下位10回という弱小球団になっていた阪神タイガースは、星野仙一監督の2年目に圧倒的な勢いで勝ち進んだ。阪神フィーバーが起り、平成不況にあえぐ日本経済、特に関西経済にとって大きなプラス作用をもたらした。宮本教授は4月の時点で、関西地域における阪神優勝の経済効果を推定した。

「その時の推定値は、直接的経済効果の総額は475.7億円、産業連関表を用いて計算した波及経済効果は総額734.4億円でした。この推定値は、前年までのデータに基づいて計算した値であり、4月～6月の阪神フィーバーは空前絶後だったので、実際の経済効果は前年までのデータに基づいた4月の推定値を大幅に上回るのであろうと考え、7月に修正版を作成しました」

その推定値は表のとおりである。

阪神百貨店や尼崎商店街で調査、データ収集

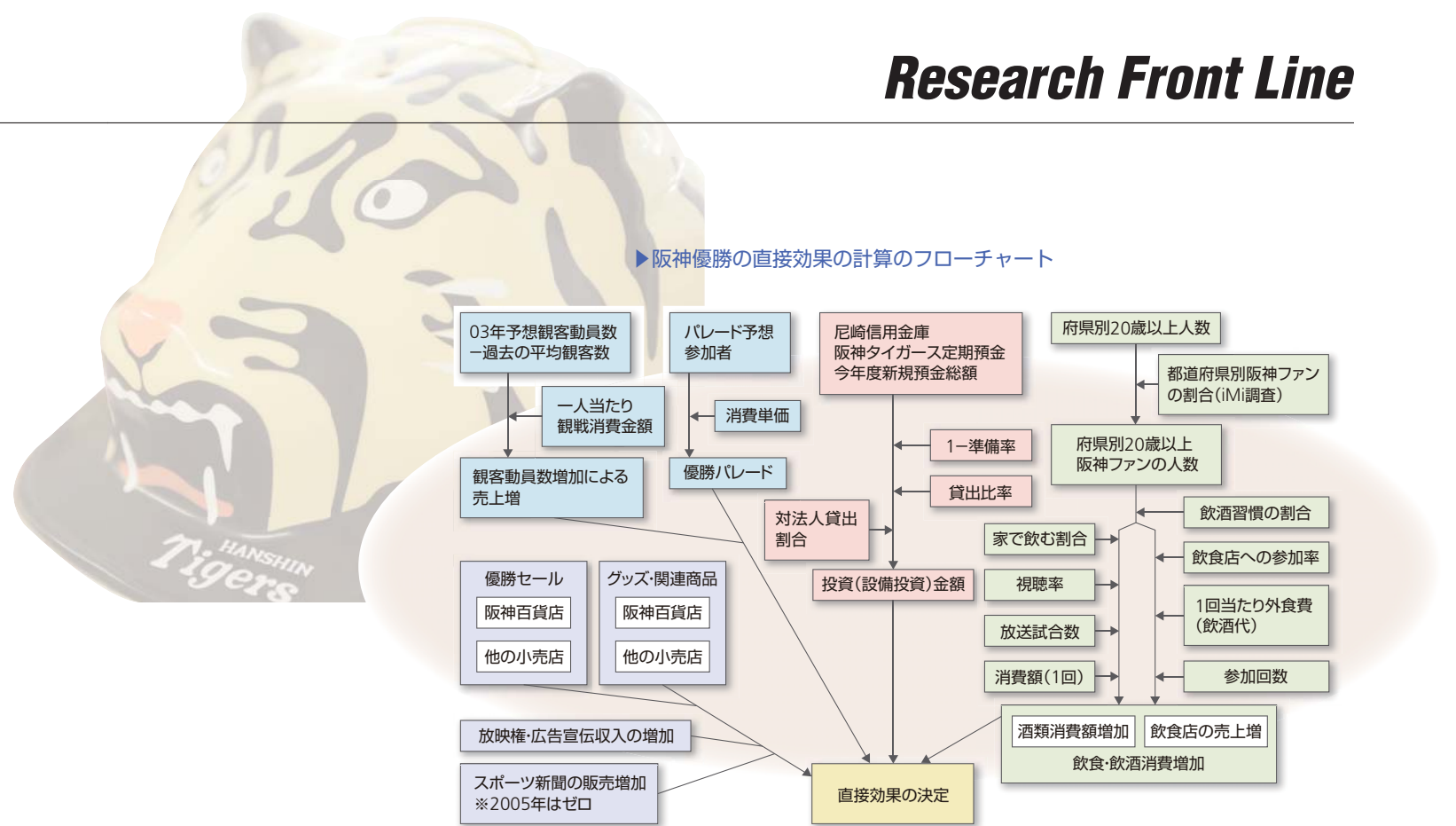
「阪神が優勝したらどのような経済効果があるか」。この推計を可能な限り現実に近いものにしようとするれば、机の上の計算だけでは成り立たない。阪神百貨店や尼崎の商店街に学生を

連れて行き、顧客にインタビューをした。「阪神が優勝してセールをしたら、また来ますか、どれぐらい買いますか」というような質問項目を用意して、合わせて約120人に聞いた。データを集めてきて、大型イベントや大規模公共工事の経済効果を推計する際に用いる産業連関分析をして、経済効果を計算する。

「プロ野球球団の優勝の経済効果とは、優勝しなかった時と比較して、優勝した時にその球団や関係企業の売上が増加した際、その増加分とその経済波及効果を推計・試算したものです。優勝した時の総売上が、しなかった時の関係企業の総売上であれば、売上があったとしても、優勝効果はゼロです。阪神優勝の経済効果として、過去5年間の優勝できなかった時の平均値と、優勝時の数値の差額を試算しました」

▶表：阪神優勝の直接効果と波及効果

●観客動員数増加	52.4億円
●優勝セール	105.6億円
●阪神ファンの飲食支出増加	416.4億円
●グッズ・ロゴマーク商品売上増加	74.0億円
●スポーツ新聞販売増加	32.4億円
●放映権・広告宣伝収入の増加	24.0億円
●尼崎信用金庫による投資増加	212.4億円
直接効果（上記合計）	917.2億円
●1次波及効果（直接効果を含む）	1,209.3億円
●2次波及効果	272.0億円
波及効果（1次・2次波及効果合計）	1,481.3億円
粗付加価値額	907.5億円
雇用創出効果	14,758人



8項目の直接効果プラス波及効果

- 経済効果の推計にあたり、次の8項目を検討し分析した。
- ①観客数増加によるチケットや球場の飲食収入による効果
  - ②優勝セールによる売上増加による効果
  - ③阪神ファンの飲食・飲酒増加による効果
  - ④阪神のロゴマーク入りグッズの売上増加による効果
  - ⑤スポーツ新聞や雑誌の売上増加による効果
  - ⑥放映権、宣伝広告収入の増加による効果
  - ⑦尼崎信用金庫のタイガース定期預金の投資増加による効果
  - ⑧優勝バレードの効果

「7月時の試算では、以上の項目の総額は917.2億円となりました。この効果は直接効果であり、経済効果はこれにとどまらず他にもあります。ある部門の消費や投資の増加により生産が拡大すると、その原材料部門の売上増加にもつながる。この経済効果を1次波及効果といいます。さらに、それらの企業に関係する経営陣や従業員の所得増加が次の消費拡大をもたらします。これが2次波及効果です。これらの直接効果と1次・2次の効果の合計である経済波及効果は、1481.3億円となりました」

算出した推定値は検証結果に近かった

実際の効果はどうだったのか。推定値は外れることなく、当たったのか。

「この年の12月、関西社会経済研究所が阪神優勝の経済効果を検証するために、関連企業を調査した結果を発表しています。その報告書によると、阪神優勝の直接効果は、私たちの推定値917.2億円をほんの少し上回る935.3億円でした。7月段階での推定は、それほど間違っていないことになりました」

この経済効果分析が話題を呼び、その後、宮本教授はさまざまな経済効果について分析を依頼され、それを発表している。

2004年：「球界再編の経済効果」、「プロ野球のストのマイナ

- ス経済効果」、「東北楽天の宮城県における経済効果」  
2005年：「阪神優勝の経済効果」、「セバ交流戦の経済効果」  
2006年：「2008年大阪サミット誘致の経済効果」、「ディーブインパクトの経済効果」  
2007年：「世界陸上競技選手権大会の経済効果」、「シャープの堺市への液晶工場進出の経済効果」  
2008年：「東国原英夫宮崎県知事就任以後の宮崎県と東国原知事の経済効果」、「くいだおれ太郎の経済波及効果」、「白毛馬ユキチャンの経済波及効果」

現在、宮本教授は関西経済連合会に協力し、シャープ、松下電器産業、住友金属の大規模工場立地による大阪湾岸の経済効果分析に携わっている。

物事を広い目で見て論理的に考えよう

宮本教授は現在、大学院会計研究科(会計専門職大学院)で経済学の授業を担当している。経済学を学ぶことは公認会計士の業務に役立つだけでなく、大きな意味を持っているという。

「経済学を学ぶメリットの一つは、広い視野に立ったものの見方ができるようになることです。例えば、高齢者医療や年金の問題を考えた場合、医療費の負担が増えたり年金の給付額を減らされると困るわけですが、誰がそれを支払っているかを考えなければなりません。若い人たちが、多くはない給料の中から保険料や税金を払っている。自分たちが高齢者となったときに今と同じだけもらえるか、彼らは疑問に思っている。給付を受ける人と負担する人とのバランスを取らないと、しかも時代を超えて見ていかないといけないとなると、マクロ的な考え方が必要になる。その上で最も良い経済政策、税制、保険システムを考えていかなければいけない。そういう広い目で物事を見る習慣が身につきます。もう一つは論理的なものの考え方ができるようになることです。経済学分析を通じて、感情的・感覚的なものにとどまらない論理的な思考方法が身につきます」



■研究最前線

D型アミノ酸の定量的解析から生成機構の解明へ

植物の生理機能の謎に分子レベルで迫る

自然界の酵素、微生物を有用なものづくりに役立てる

●化学生命工学部  
老川 典夫 教授

ヒトのすべての遺伝情報(遺伝子の配列)が解読されて以降、ポストゲノムの時代といわれる現在、タンパク質やアミノ酸、酵素の構造や機能の研究が生命科学の中心となっている。老川典夫教授は、食品や植物に含まれるD型アミノ酸の生成機構を追究し、いくつかの新しい知見を得た。また、自然界から食品や医薬品などの有用な化合物を合成する新しい生体触媒(酵素、微生物)を発見し、その特性を解明するとともに企業との共同研究を進めている。

■D-アミノ酸が重要な生理機能に関与

—生命維持に欠かせない物質であるタンパク質やアミノ酸の研究領域において、従来の食品成分の研究との違いは？

食品の成分を分析するのではなく、なぜそれができているのか、どのように作られるのかを、分子レベルで解明するのが私たちの研究目標です。多くの場合、酵素がかかわっており、酵素の働きを究明する必要があります。

アミノ酸にはL型とD型があり、これまでは自然界を構成しているアミノ酸はほとんどがL型で、希少なD型は役に立たないものと考えられてきました。しかし、近年の分析技術の向上により、微生物や植物、動物においても、D-アミノ酸の存在が明らかにされてきました。

最近、D-アミノ酸の一種であるD-セリンやD-アスパラギン酸がヒト、マウス、タコなどの脳内に存在していることが分かり、神経系や内分泌系の調節などの重要な生理機能への関与が解明されつつあります。

例えば、D-セリンの投与は統合失調症の症状の緩和に有効であり、すでに臨床応用も検討されています。またアルツハイマー患者の血中D-セリン濃度が、健常者の場合に比べ有意に低下していることも報告されています。

動物についての研究が先行していますが、植物にD-アミノ酸が存在することは、約50年前に既に確認されています。しかし、いまだにその生理的機能は解明されていません。私たちは10年ぐらい前からこの点に着目し、食品や植物中のD-アミノ酸の定量的な解析と生成のメカニズムについて研究しています。

■イネ・発芽玄米のD-セリンを解析

—日ごろ摂取している食品の中にどれくらいD-アミノ酸が含まれているのか、定量分析の結果は？



野菜や果物、植物性の原料を使って発酵させた飲料、ビールやワイン、日本酒などを幅広く調べたところ、非常に多種多様なD-アミノ酸が存在することが明らかになりました。

中でもイネの研究に力を入れているのは、日本人の主食であり、お酒の原料にもなっていること、日本が中心になってイネの全ゲノムを解読したことによります。ゲノム情報があれば、タンパク質の機能を解明していく上で非常に有利になります。

イネの中にはD型とL型のセリンを相互に変換する酵素があり、セリンラセマーゼと呼んでいます。イネのセリンラセマーゼとヒトのものは多くの共通の遺伝子構造を持っていながら、違う部分もあります。私たちはそのあたりを分子レベルで究明しています。

イネの遺伝子がどういう機能を持っているか、その遺伝子を破壊して調べる方法があります。イネの中でセリンラセマーゼの遺伝子がなくなったものを調製すれば、生育にどのような影響が出るか、どのような栄養を要求するかを調べることができます。

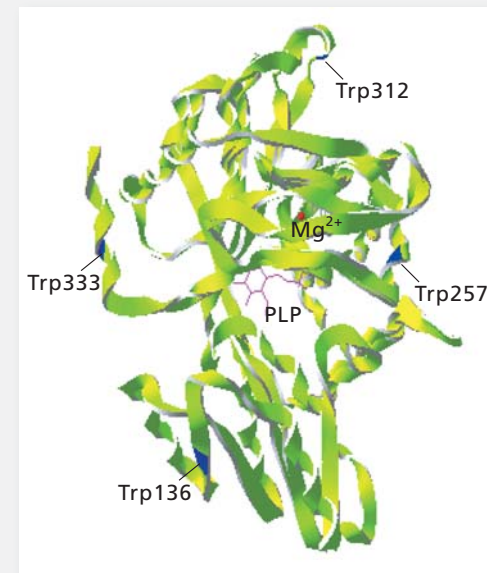
また、玄米を発芽させて、D-アミノ酸の種類や量が発芽に伴ってどのように変化していくか、その生成の機構を研究しています。発芽に伴い、ある種のD-アミノ酸の含有量が増加することが明らかになりました。これはアミノ酸ラセマーゼの活性によるものと考えられます。また発芽玄米には、心をリラックスさせる効果があるギャバも含まれており、注目されています。

D-セリンなどのD-アミノ酸含有量の高い野菜、果物、発芽玄米などを摂取することにより、脳の高次機能の活性化などの効果が期待できます。さらに、酵素の働きを解明するためにはセリンラセマーゼの「立体構造」を突き止める必要があり、私たちの大きな研究目標になっています。

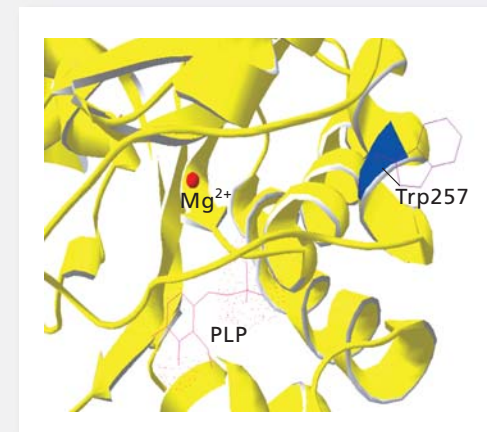
今後、さまざまなD-アミノ酸の生理的機能が明らかになるにつれて、D-アミノ酸を多量に含む機能性食品などの開発にもつながると考えています。

▶イネのセリンラセマーゼの推定立体構造

- ・イネ *Oryza sativa* L. のセリンラセマーゼ (黄色)
- ・分裂酵母 *Schizosaccharomyces pombe* のセリンラセマーゼ (黄緑色)



A: イネのセリンラセマーゼの推定立体構造



B: イネのセリンラセマーゼの推定活性中心構造  
by Swiss-PDB viewer



■カフェインを選択的に除去する微生物

—関西大学とUCC上島珈琲株式会社との共同で特許を出願した「カフェインを分解する微生物、ならびにその微生物を用いたカフェインの除去方法およびポリフェノール含有食品の製造方法」について

近年、食品中のポリフェノール成分の効能が注目されています。例えば、コレステロール上昇抑制作用、生体内抗酸化作用などの生理的機能を有し、健康に有用な食品として利用できます。一方、カフェインは医薬品に利用されるようなメリットもあるのですが、健康上の理由などからカフェインを敬遠したいという消費者ニーズがあることも確かです。また、自然環境におけるカフェインの残留と生態系への影響についても近年研究されつつあります。

Research Front Line

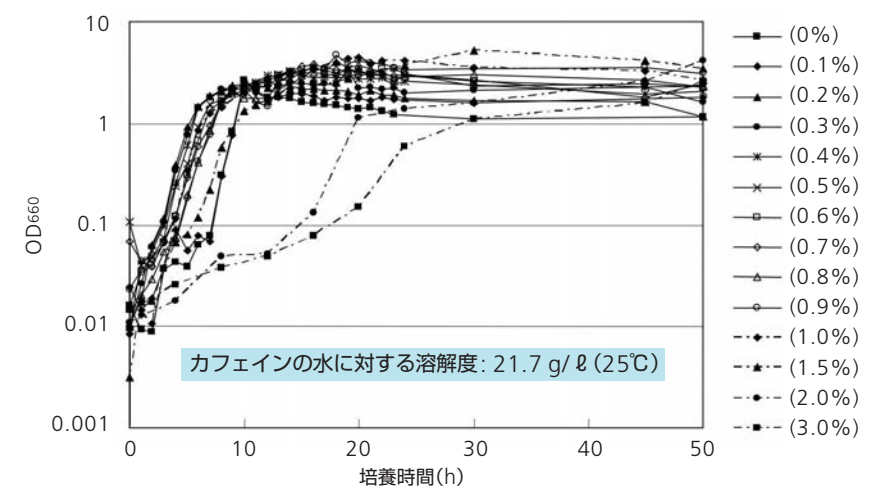
▶玄米中のセリンの定量

	玄米 1g(湿重量)当りのSer及びGABAの含有量			
	D-Ser ( $\mu$ mol/g)	L-Ser ( $\mu$ mol/g)	D-Ser/(D-Ser+L-Ser) (%)	GABA ( $\mu$ mol/g)
玄米	0.044	0.287	13	2.04
発芽玄米(一日目)	0.032	0.167	16	0.689
発芽玄米(二日目)	0.069	0.295	19	1.88
発芽玄米(三日目)	0.110	0.303	27	4.23



発芽玄米では茶碗一杯分(100g)でD-セリンは0.2mg、GABAは40mgが含まれていることになります。

▶カフェイン濃度の *Pseudomonas* sp. KUCC-0001 の増殖に及ぼす影響



\*いずれのカフェイン濃度でも培地中のカフェインは培養開始後20時間後に完全に分解された。

コーヒーに含まれる代表的なポリフェノールであるクロロゲン酸類は、コーヒー粉末や抽出物の食品添加物や健康食品としての利用が注目されています。また、抗酸化作用やがん抑制効果が期待できる有用な物質です。

そこで、自然界からカフェイン分解能を有する微生物を探し、得られた微生物を用いて、コーヒー抽出物から有用ポリフェノール類を残存させながら、カフェインを選択的に効率よく除去する方法を見いだしました。

従来困難だった高濃度のカフェイン存在下でもカフェインの分解と高いクロロゲン酸類の残存を実現するシュードモナス属微生物(*Pseudomonas* sp. KUCC-0001)を、自然界から単離しました。その微生物の働きによって、カフェインを分解し、飲食品、保健・医薬品、化粧品等に広く利用できるカフェインの除去方法を提供できるようになります。さらに、カフェインを除去したポリフェノール含有食品の簡便な製造方法を提供することも可能です。

私たち生体分子工学研究室では、無数にある微生物の中から食品や医薬品などの有用な物質を生産するもの、いわば「宝」を探し出し、「バイオでものづくり」をする、夢のある研究に取り組んでいます。



## 21世紀の技術立国を担う人を育てる

理工系3学部9学科20コースの教育・研究

「理工系3学部開設・工学部創立50周年記念式典」開催



千里山キャンパスで開催された理工系3学部開設・工学部創立50周年記念式典



●システム理工学部長  
小澤 守 教授



●環境都市工学部長  
楠見 晴重 教授



●化学生命工学部長  
土戸 哲明 教授

1958年に創設された関西大学工学部は、昨年4月にシステム理工学部、環境都市工学部、化学生命工学部の3学部へ再編され、大きく生まれ変わった。それを記念する「理工系3学部開設・工学部創立50周年記念式典」が、5月17日に千里山キャンパス第2学舎4号館BIGホール100で開催された。

当日は学内外から約1,000人の来場者があり、工学部卒業生の大坪文雄・松下電器産業株式会社代表取締役社長が、「21世紀を担うものづくり」と題して講演。続いて「21世紀の日本を担う人材～技術立国を支える人材育成～」をテーマに、パネルディスカッションを実施。大坪氏、新エネルギー・産業技術総合開発機構理事の和坂貞雄氏、越智光一・副学長、鈴木直・システム理工学部長、白石真澄・政策創造学部教授、大学院生、学部生が活発に意見を交換した。

工学部半世紀の伝統を踏まえ、理工系3学部の特色や教育・研究の在り方について、各学部長に語り合ってもらった。

### ▶工学部から理工系3学部へ

**楠見** 私が学生だったころの工学部の環境は、今と比べて決して恵まれたものではなく、エアコンもありませんでしたから、夏はランニング姿で実験していましたね。そこで朝から晩まで研究漬けの経験をしたことが、今の研究の土台になっていると思います。

120年を超える関西大学の歴史の中で、工学部は比較的若いけれども50周年を迎えました。第一線で活躍されている卒業生を輩出し、わが国の科学技術の発展を十分担ってきたのではないかと、感慨深いものがあります。

昨年は11学科あった工学部を改め、「しくみづくり」のシステム理工学部、「まちづくり」の環境都市工学部、「ものづくり」の化学生命工学部というコンセプトで、カリキュラムを一新し、理工系3学部9学科体制に改組しました。

**土戸** われわれ理工系は大学院教育を重視していますが、学部

から大学院への進学率は平均すると3割程度。まだ少ないと思います。大学院教育と同時に学部教育、特に基礎教育も非常に重要です。ゆとり教育による学力低下や理系離れが問題視されている状況の中で、7割の学生が社会に出ていくわけですから、基礎をしっかり身につけた学生を送り出したい。学部も大学院も両方とも大事だというスタンスで、改革を進めています。

### ▶基礎教育重視のカリキュラム

**小澤** かつての機械工学科と機械システム工学科、電気工学科と電子工学科などでは、研究内容がほとんど変わりませんでした。システム理工学部は、数学・物理を基本に置いた学問分野を集め、数学科、物理・応用物理学、機械工学科、電気電子情報工学科の4学科としました。何を学ぶ学科か、高校生にも分かりやすくなったと思います。

また、数学や物理に関する新学科を設けたことで、基礎教育

を強化しつつ、卒業、就職まで全教員が一緒になって学生を指導する体制になっています。

**楠見** いろいろな入試形態で入学してくる多様な学生を受け入れる限りは、きちんと教育しなければならない。必然的に基礎教育を重視することになります。

**小澤** 機械や電気、情報の技術者になろうと思えば、高度な最先端の科学技術などに対する理解は十分ではなくとも、少なくとも古典力学の範囲までは分かっていないと仕事にならない。論理的なものの考え方や数字に対する感覚も大事です。基礎科目を重視した新しいカリキュラム体系になったことは良かったと思っています。

**楠見** 質の高い教育を保証するという意味では、いくつかの学科はJABEE(日本技術者教育認定機構)の認定を受けています。それによって教員が活性化するというメリットもあります。また、e-LearningシステムCEAS(シーズ)を活用すれば、予習復習のチェックができるので、基礎教育の充実につながります。

### ▶現場で体を動かしてものを作る

**土戸** 3学部9学科の下に、20コース制を設けたことも特徴です。入学してから基礎を固め、自分が研究したい分野、進みたいコースを選択できます。入り口の広い領域で、いろんな講義を受けて興味を絞って卒業研究に取り組みます。

化学生命工学部には、化学・物質工学科と生命・生物工学科があります。生命・生物系は再生医療などのホットな話題もあって人気が高いのですが、夢の部分だけが先行しがちです。夢を持つことは良いことですが、手を使わずに何でも簡単に物事ができるように考える傾向がある。これは周りに自然が広がっていたり、自分で工作したりしたわれわれの子ども時代との違いでしょうか。

**小澤** 確かにそういう体験が非常に少ないですね。産業の基盤技術を支える人材を育てていかないと、日本は生き残れない。技術は人間そのものであり、図面があってコンピューターの計算式があったらものが作れるわけではなくて、人そのものに依存している。それが非常に大事な点です。

私は学生に、現場で実際にものが作れたらどこの大学の出身者にも負けたいと言っています。自分の体を動かして実験をして、ものを作る。そういう経験をどれだけ積んでいるかで勝負



が決まると。

今はインターンシップが成長のきっかけになっています。

インターンシップを経験して研究やものづくりの面白さに目覚めた例は少なくありません。

**楠見** 環境都市工学部でもインターンシップに積極的に取り組み、毎年50人ほどの学生が夏休みを利用して参加しています。また、平成19年度の現代GPに採択されたプロジェクトで、兵庫県丹波市と連携して過疎化が進む農山村で学生が持続的に関わり続ける地域再生に取り組み、また現地で体験型授業を開講しています。

### ▶魅力ある大学院へ、改革を推進

**楠見** 科学技術立国を担う理工系学部として、外部の研究機関や企業との連携を推進するとともに、国際化を早急に進めていく必要があります。海外の大学との提携も、研究や技術交流レベルでもっと進めていかねばなりません。

**土戸** 大学院では「派遣実習教育プログラム」を始めており、従来の大学同士の交流協定以外に、研究科や学部でも海外の大学と提携し、語学教育ではなくて、共同研究を通じて学生・研究者の派遣が活発にできるようになりつつあります。また、国内の研究機関にも学生を派遣したりする、インターンシップの大学院版もあります。

これは優秀な学生に限りますが、早期卒業・早期修了の制度を導入しつつあります。3年半で学部を卒業し、博士課程前期課程を1年半で、また後期課程を2年で、トータル9年かかるところを7年で博士の学位が取れるシステムです。小澤先生と楠見先生の所属学科については、既に可能になっています。

さらに、本学大学院への進学が確定している学生には、4年次に大学院の科目が10単位まで受講できる先行履修制度も設けています。今後とも、意欲のある学生のモチベーションを高めるような改革をしていきたいと考えています。

**小澤** 技術者はものができてうれしいと感じる、ある種のロマンを持った人間です。最後は情熱がものをいいます。関大らしい情熱を持った技術者を養成したいですね。

## KANDAI NEWS

### 大学院心理学研究科を新設

関西大学の心理学分野の研究がさらに充実する。文学部の心理学と社会学部の心理学を大学院レベルで統合した、新たな独立研究科である心理学研究科が開設された。同研究科は、博士課程前期課程の認知・発達心理学および社会心理学の2専攻並びに博士課程後期課程の心理学専攻から構成され、心理学におけるほとんどの領域を研究分野としている。さらに、臨床心理に関する高度専門職業人養成のための専門職大学院を設置認可申請中である。

### 文学部でカレッジリンクを開始 世代を超えた学びの空間を創造

文学部では、平成18年度から、財団法人社会開発研究センター(村田裕之理事長・本学客員教授)と株式会社アンクルージュ(東良隆代表取締役社長)と協定を結び、日本初の試みであるカレッジリンク型シニア住宅設立の準備を整えてきたが、平成20年秋から本格的な受け入れを開始する。これはシニア住宅「クラブ・アンクルージュ御影」(神戸市)の入居者を聴講生や科目等履修生、あるいは正規学生として受け入れる形で行う。また、入居希望者を対象とする特別講座や、「クラブ・アンクルージュ御影」における講演会等のオン・コミュニティプログラムも随時実施する予定。「クラブ・アンクルージュ御影」は3月末に竣工、8月から入居受け入れが始まる。



高槻新キャンパス・社会安全学部(仮称)2010年開設

## 「安全・事故防止、防災・減災、危機管理」の教育・研究拠点

「安全宣言学園構築プロジェクト」を推進  
「危機管理規程」制定、「社会安全シンポジウム」を開催



● 安部 誠治 副学長に聞く

関西大学は非常時における学園の危機管理体制を確立することを目標として、昨年7月に「安全宣言学園構築プロジェクト」を発足させた。「安全・安心」づくりの基本となる「学校法人関西大学危機管理規程」が制定されたことを機会に、「社会安全シンポジウム」が4月26日に千里山キャンパスで開催された。

当日は冬柴鐵三・国土交通大臣、小河保之・大阪府副知事、阪口善雄・吹田市市長、奥本務・高槻市長による来賓挨拶に続き、基調講演とパネルディスカッションを実施。河田恵昭・京都大学防災研究所巨大災害研究センター長が「社会安全学の融合教育・研究拠点の構想」、安部誠治・副学長が「安全宣言学園」構築プロジェクトについて、布村明彦・国土交通省近畿地方整備局長が「近年の防災対策は何を目指しているか」、木下富雄・京都大学名誉教授が「大学のリスク・マネジメント」と題して講演。

パネルディスカッションでは、小澤守・システム理工学部長、土田昭司・社会学部教授も加わり、大学が安全や防災、危機管理に実践的に対応できる人材をいかに育成し、安全・安心な社会の構築に貢献するべきかについて活発な議論が展開された。

これらのテーマに応え得る教育・研究拠点として、高槻新キャンパスに2010年4月、「社会安全学部」と大学院「社会安全学研究科」が開設される(いずれも仮称)。「安全・安心」にかかわる一連の取り組みについて、安部副学長に話を聞いた。



社会安全シンポジウムで講演する河田恵昭・京都大学防災研究所巨大災害研究センター長



2010年4月に開設される高槻新キャンパス(完成イメージ)

### ● リスクを洗い出しマニュアル化

— 制定された「学校法人関西大学危機管理規程」の内容は？

今まで危機管理に関しては、経験的に各部署で処理してきました。例えば、体育会の学生が合宿先で事故に遭った場合、学生センターが対処してきましたが、明示された規程がなかったのです。今回、全学的に多岐にわたるリスクを洗い出し、マニュアル化しました。

地震などの自然災害は避けられなくても、起こった時に被害をいかに減らしていくかが大事です。事件事故関係では、留学中や海外旅行でテロに巻き込まれた時の対応、鉄道事故や航空事故の時の対応、学内の火災、入試のトラブルなどいろいろありますが、事故の防止と起こった時の被害の低減という点が大切です。

危機管理には専門的な知識が必要であり、担当者が数年で異動すると新しい人がまた一から対応しなければならなくなるため、部署を問わず常に危機管理に携わるリスクマネージャーを置くことにしました。当面10人程度を養成し、外部の講習会などで専門知識を系統的に身につけてもらいます。

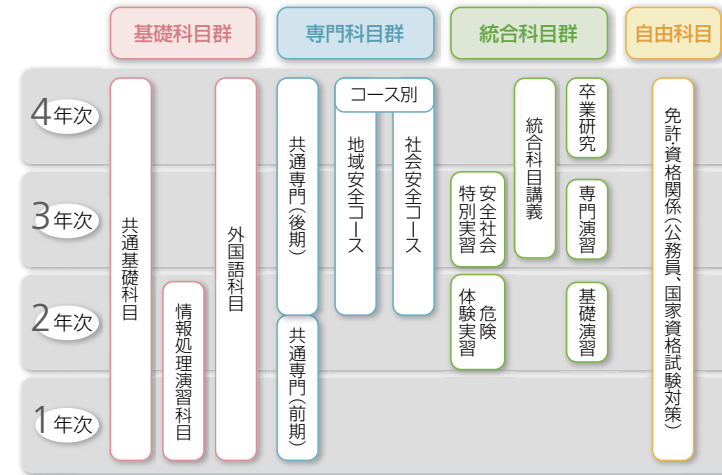
3月5日にシミュレーション訓練の第1回目を実施しました。リスクマネージャーと危機管理の責任者、学部長などが集まり、地震が起こったと想定して、発生から5日間の動きを訓練しました。

### ● 新キャンパスを安全・安心のメッカに

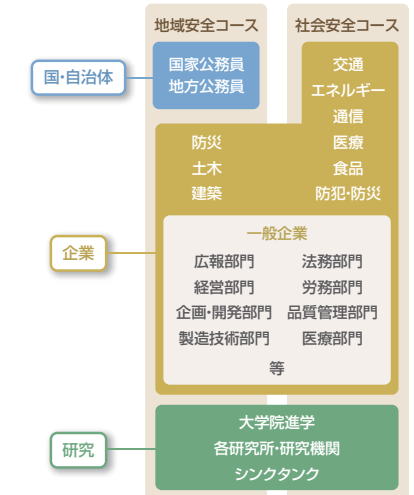
— 高槻新キャンパスと「社会安全学部」について

8月29日に地鎮祭を行い、2010年4月の開設に向けて着工し

### ▶ 社会安全学部教育課程のイメージ



### ▶ 社会安全学部卒業後の進路イメージ



ます。校舎棟は地上13階、高さ約59mで、小学校、中学校、高等学校、学部・研究科の教室、図書館、コンベンションホール、生涯学習施設など。他に体育館(講堂)やレストランなどの体育・厚生棟、グラウンドを設けます。

大学の社会安全学部は、「安全・事故防止、防災・減災、危機管理」に関する幅広い分野について、自然科学と人文・社会科学の両面から学べる全国初の学部です。学部には、主に地域の防災・減災について学ぶ「地域安全コース」、生活安全や企業の危機管理などについて学ぶ「社会安全コース」の2コースを設置します。

### ● 調査・体験実習を重視

— 社会安全学部の教育の特色や想定される就職先は？

例えば地震が起こった時に、減災のために自治体はどう対応すればよいのか。安否情報、救急救命、仮設住宅、物流などがポイントになりますし、ボランティアをどう編成するかというボランティア論も必要です。教育課程には次のような特色があります。

- ① リスクや危機管理、防災・減災に関する基本的専門知識の体系的習得
- ② リスク管理の方法や手法の習得
- ③ 破壊実験などの体験学習・実習の実施による実践的能力の習得
- ④ 社会調査、ディベート、プレゼンテーション、高度な情報処理、専門英語などの諸能力の習得・向上支援

特に、街に出て危険な所を調べる「安全社会特別実習」、地震の揺れや建物の破壊、自動車のスリップ・衝突を体験する「危険体験実習」などを通じて、リスク事象を見分けて問題解決に向かう手法を身につけさせたいと思います。

就職先としては一般企業や公務部門をはじめ、上図のような進路を想定しています。

### ● 社会人のリカレント教育にも対応

— 同時に開設される大学院研究科について

情報学・工学・法学・経済学・心理学などを融合した「社会安全学」領域を世界に先駆けて構築することを目指し、先端的な研究を展開します。研究者を養成するとともに、安全や防災、危機管理に関する高度専門職業人を養成します。

省庁や自治体、企業などで活躍する社会人のリカレント教育にも対応する予定です。また、外国人留学生に対しては、自国のリーダーとなって活躍できるような実務的なプログラムを考えています。

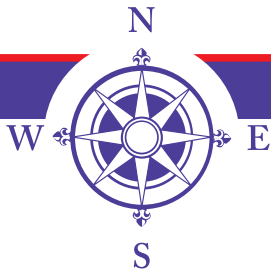
### 兵庫県加西市と連携協定を締結

関西大学は兵庫県加西市と包括的な連携を行うことで合意に達し、4月16日に調印式を行った。本学大学院会計研究科の研究プロジェクトユニットの一環である「政府会計フォーラム」(代表：柴健次教授)を通じて積極的な交流に発展したことから、今回の「連携協力に関する協定」に至った。今後は地域づくり、教育・文化の振興、人材育成、福祉の増進、産業振興等の分野で相互に協力し、地域と大学の活性化に寄与することが期待される。

### 「関西大学地域アカデミー」を開催

関西大学では9月29日～10月3日、JTBとの共同事業として「関西大学地域アカデミー」を開催する。これは本学など4大学が主催する生涯教育プログラム。本学は「古都飛鳥の歴史と文学」をテーマに、明日香村の大学セミナーハウスでの宿泊と、史跡見学・現地講義を併せた内容。高松塚古墳の壁画発掘という世紀の大発見をもたらした考古学、歴史学、地理学のスタッフによる「飛鳥学」の総合講座を提供する。お問い合わせは、電話03-5953-5485。





### 文部科学省「人文学及び社会科学における共同研究拠点の整備の推進事業」に採択

文部科学省の平成20年度「人文学及び社会科学における共同研究拠点の整備の推進事業」に、関西大学「ソシオネットワーク戦略研究センター」(拠点代表者：鶴飼康東 関西大学ソシオネットワーク戦略研究センター長)が採択された。情報技術の政策研究を目的として設立された関西大学ソシオネットワーク戦略研究センターを中心に、「ソシオネットワーク戦略」という新しい学問分野を創設し、豊富な学術データの蓄積と国際的ネットワークの形成に取り組んできたことが高く評価された。今回、14大学(14拠点)が申請し、本学を含む5大学(5拠点)が採択された。

### 関大前駅南出口からのエスカレーターが完成

阪急電鉄「関大前」駅南出口から100周年記念会館までの坂道にエスカレーターを設置する工事が完成し、4月26日に通り初めが行われた。これによって丘陵地に広がる千里山キャンパスへのアプローチが改善された。

エスカレーターは並列2機が2カ所に合計4機設置され、運行時間は通常授業時の8時から18時30分まで。ただし、朝の混雑緩和のために11時までは全機とも上りのみとなっている。



阪急電鉄「関大前」駅南出口から100周年記念会館までの坂道に設置されたエスカレーター

### 関西大学のトイレに「KUエコロール」登場

関西大学では、環境に配慮し、大学が排出する機密文書をリサイクルしてトイレトーパーとして再利用している。機密文書とは、試験問題や答案用紙、会議資料などで、これまでリサイクル紙として溶解処理されていたが、オリジナルトイレトーパーとして生まれ変わるようになった。その名も「KUエコロール」。千里山キャンパスや関大北陽高校などの学舎で、5月から使用されている。

本学のエコキャンパスへの取り組みはホームページにも掲載。  
[http://www.kansai-u.ac.jp/mt/archives/2008/05/post\\_35.html](http://www.kansai-u.ac.jp/mt/archives/2008/05/post_35.html)

### 関西大学北陽高等学校が開校 第1期生492人が入学



学校法人関西大学と学校法人福武学園が4月1日に合併し、関西大学北陽高等学校が開校した。前日の発足記念式典には、関西大学の役員や北陽高校の教職員、同窓会、PTA役員などの関係者、135人が参加。男女共学校として新しくスタートするにあたり、教室や食堂など、校舎内外が大幅にリニューアルされ、学びの環境が一段と整った。

新入生を迎えた同校は、4月6日に入学式を挙行了。募集人員280人を大幅に上回る、総勢492人の第1期生が入学。新入生には入学後すぐに、郡上高原(岐阜県)で2泊3日の宿泊研修を実施した。文武両道の関大北陽生として自覚を持ち、今後の高校生活を謳歌するための過ごし方などについてガイダンスを行った。

### 早稲田大学と教育研究協力に関する協定を締結 記念にアメリカンフットボール交流試合を開催

関西大学と早稲田大学は、教育研究協力に関する協定を締結し、5月13日にリーガロイヤルホテル東京で調印式を行った。教育・研究領域における学術交流を通じて、レベルを一層高めるとともに相互にグローバルな視点から教育・研究、社会連携活動を行うことを目的としている。

また、1940(昭和15)年から始まった日本アメリカンフットボール史上最古の東西対抗戦であり、今年で第63回を迎えた両校の定期戦を、交流協定締結の記念試合として位置づけて、6月8日に千里山キャンパスで開催した。



ベナントを交換する両校の関係者たち